

課題番号1

課題名	重点課題2 農業を新たな「仕事」にできる機会の拡大 新規就農者の確保と定着に向けた取組	
対象： 新規就農希望者6名、新規就農者29名	計画期間：H29～33	事務所名：北部農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果（達成率）
①経営管理能力の向上 ②栽培管理技術の習得	①個別面談、アグリアカデミカ・経営コンサル事業活用 ②研修会の開催（トマト、いちご） 現地指導、調査	①営農計画作成4名（80%）、見直し9名（100%） コンサル事業活用による営農プラン作成5名、実践1名（100%） ②課題達成（出荷量、販売額）4名（67%）

総合評価（コメント）	
<p>A：6名 B：1名</p> <p>■活動計画にもとづき一定の成果をあげている。また、活動実績をふまえ、今後の課題も明確であり、その取組が期待される。</p> <p>■平素から最も農家に近い距離にいる普及指導員こそが、親身になり（特に新規就農者に対して）、農家の経営状況や懸案事項を常に気にかかけ、気軽に相談に乗ることのできる体制が求められる。</p> <p>■新規就農者に対し「自己完結型の営農」を支援するのではなく、将来の「地域農業のリーダー」に育てることを念頭においた普及活動を期待している。</p> <p>■成功例の報告など新規就農者のモチベーションの向上につないでいってほしい。担い手の確保と定着させていくことに注目していきたい。</p> <p>■地域住民と接する機会を増やすことも重要。地域で農業をする場合、住民との協力関係は不可欠。</p> <p>■離農者が多い現実の中にある課題を抽出できなければ、新規就農者が今後、離農していく可能性を払拭できない。そういう意味ではさらに踏み込んだ研究が必要である。</p> <p>■新規就農者には経営管理能力向上よりは、栽培管理技術の習得に重きを置く方が良いと思う。</p> <p>■JAとさらなる連携を強め個々の経営課題の指導をしてほしい。</p>	

評価 A:おおむね適切である。 B:部分的に検討が必要である。 C:見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等	
<p>■引き続き新規就農者の定着に向け栽培・経営管理技術の向上に努め、特に就農年数の短い新規就農者には基礎的な栽培技術の習得に取り組む。 （対象者：H31年度5名→令和2年度7名）</p> <p>■総合評価を参考に、農業者特に新規就農者が気軽に相談に乗ってもらえる農の普及課を常に心掛けていく。</p>	